

2006 福島県の漁港



福島県

目次

福島県の概要	1
<small>まつかわうら</small> 松川浦漁港	2
<small>うけど</small> 請戸漁港	6
<small>つるしはま</small> 釣師浜漁港	7
<small>まのがわ</small> 真野川漁港	9
<small>ひさのはま</small> 久之浜漁港	11
<small>よつくら</small> 四倉漁港	12
<small>とよま</small> 豊間漁港	14
<small>なこそ</small> 勿来漁港	17
<small>とみおか</small> 富岡漁港	18
<small>おばま</small> 小浜漁港	19
ふくしまの海の幸	20
主な漁業の種類	22
漁港関係用語説明	23

福島県の位置

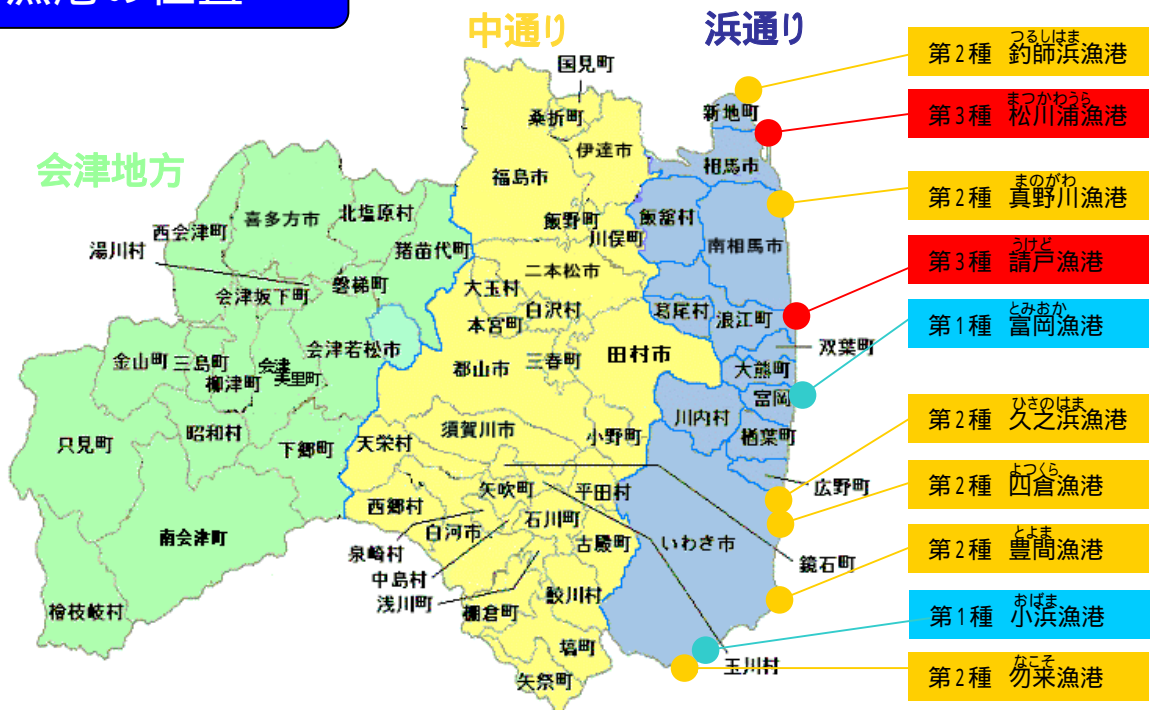


福島県は、東北地方の最南端に位置し、総面積は約13,782km²で、北海道、岩手県に次いで第3位です。東部には阿武隈高地、西部に奥羽山脈が南北に走り、太平洋側からそれぞれ気候条件の異なる浜通り、中通り、会津地方に3分されています。太平洋に面した海岸線の総延長は163kmで、北部に位置する内湾性地形の松川浦を除いては全体的に単調で、天然の良港には恵まれていません。

沿岸域は、暖流と寒流が交差する「潮目の海」であり、両勢力の強弱によって海況は大きく変わり、多種多様な魚種が生息する豊かな海となっています。主な漁場となる水深約200mより浅い陸棚域は、県北部で約60km、県南部で約30kmと、県北では広く県南では狭くなっています。底質は、水深50mより浅い海域は、県北部では粗砂、県南では細砂と、いずれも砂質であり、水深50mから100m付近までは砂泥質又は泥質となっています。

本県の漁港は、現在10港で、全て県の管理となっており、第3種漁港が2港、第2種漁港が6港、第1種漁港が2港となっています。

漁港の位置

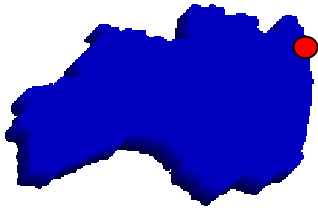


福島県の概要

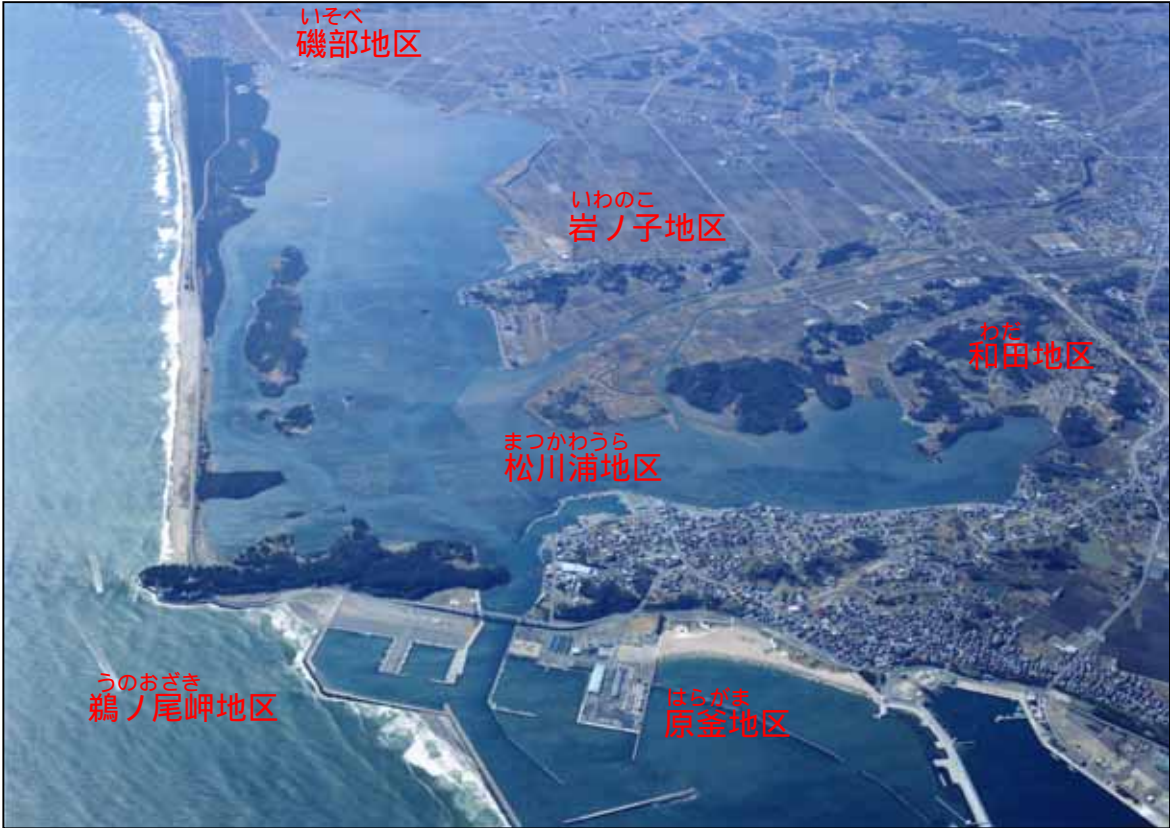
	海面漁業・養殖業生産量 (属人) (平成15年度)	海面漁業・養殖業生産額 (属人) (平成15年度)	登録漁船 (平成15年度)	漁業集落の下水道普及率 (県全体) (平成14年度)	海岸線延長水産庁 (県全体) (平成15年度)
数量	123,220 t	163億円	1,202隻	34.4(56.0)%	29,979(166,550)m
全国順位	15位	29位	35位	23(30)位	36(36)位

第3種 松川浦漁港

まつかわうら



所在地：相馬市
指 定：昭和26年7月10日



松川浦は、福島県北西部に位置する県内唯一の潟湖で二級河川宇多川、小泉川、梅川及び日下石川が流入し、鵜ノ尾岬に連なる砂州により太平洋と隔てられ、北側の漁港部にて外海と連絡しています。

漁港は、外海に面した区域に整備されている原釜地区及び鵜ノ尾岬地区と浦内の松川浦地区、和田地区、岩ノ子地区並びに磯部地区の6地区に分かれており、現在は、広域漁港整備事業として鵜ノ尾岬地区を中心に整備を図っています。

～ 概要 ～

広域漁港整備事業	
総事業費	1,240 百万円
実施予定年度	H14～H19
主な工種	
鵜ノ尾岬	松川浦
南防波堤	-3.0岸壁改良
波除堤	磯部
-4.5航路	-2.0物揚場補修
岩ノ子	-2.0航路
-1.5航路	-2.0泊地
-1.5泊地	用地舗装

港 の 概 要 (平成16年)		
陸揚量(トン)	属人陸揚量(トン)	陸揚金額(百万円)
14,159	14,048	4,522
登録漁船数(隻(トン))	利用漁船数(隻(トン))	
592(2,324)	682(2,778)	
主な漁業種別		主な陸揚げ漁種
船曳網、沖合底曳網、刺し網、小型底曳網、採藻		イカナゴ、カレイ、ノリタコ、ホッキガイ

施設概要(m) (平成16年度末)		
外かく施設	防波堤	4,551.9
	護岸	2,696.8
	防砂堤等	2,747.5
	計	9,996.2
けい留施設	岸壁	1,940.5
	船揚場	172.3
	物揚場	926.3
	計	3,039.1

まつかわうら まつかわうら まつかわうら
松川浦・原釜・鵜ノ尾岬地区



松川浦漁港は明治43年の河口部の開削から漁港整備が始まり、松川浦地区は最初に漁港施設の整備が行われた箇所です。

漁港施設は昭和45年頃に概成していましたが、漁船の大型化、漁種の近代化等により漁獲量が飛躍的に伸びたことから、松川浦地区のみでの対応が困難となり、新港（原釜地区）の計画が策定されることになりました。

原釜地区は第6・7次漁港整備長期計画（昭和52年～62年）により整備が図られ、その後、第8次漁港整備長期計画（昭和63年～平成5年）にて関連道として松川浦大橋を整備し、第9次漁港整備長期計画（平成6年～13年）及び平成14年度からは広域水産物供給基盤整備事業として鵜ノ尾岬地区の新港整備を行っています。



松川浦大橋

和田・磯部・岩ノ子地区



和田地区



岩ノ子地区

和田・岩ノ子地区は主に浦内を漁場とする海苔養殖業が盛んです。



磯部地区

磯部地区は最南端に位置し、浦内を縦断して外海と連絡します。水揚げは主にイカナゴやホッキ貝となっています。

まつかわうら
松川浦漁港海岸



おばま
尾浜地区海岸

海浜公園として漁港海岸環境整備事業により、養浜、階段護岸、トイレ、シャワー室、駐車場等が整備され、夏場は海水浴場として多くの人々で賑わいます。

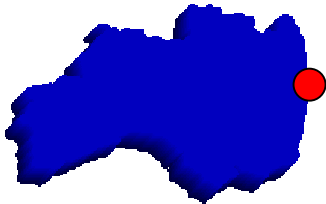
おおす
大州地区海岸

漁港関連道路整備事業により、海岸線沿いに道路が整備され、太平洋と松川浦に囲まれたなかを通行しながら、雄大な景観を楽しむことができます。

日本の渚・百選に認定されています。



第3種 請戸漁港 うけど



所在地：双葉郡浪江町
 指 定：昭和26年7月10日



請戸漁港は海岸線の中央部に位置し、二級河川請戸川河口部に整備された漁港です。当初は北側の旧港部のみでしたが、利用漁船の増大に伴い、外海部に新港の整備を図りました。また、地域防災計画に基づく防災拠点港の指定を受けたことに伴い、耐震強化岸壁の整備も行っています。現在は、広域漁港整備事業として、沖防波堤等の整備を図っています。主に船びき網による漁業が盛んであり、イカナゴの水揚げが多い漁港です。

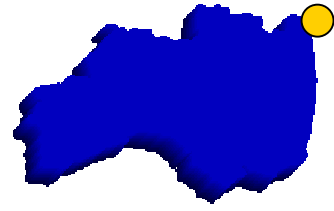
～概要～

広域漁港整備事業	
総事業費	2,230 百万円
実施予定年度	H14～H21
主な工種	
沖防波堤	-2.0物揚場
東防波堤	係船浮標
波除堤	-2.0物揚場補修
-3.0岸壁	-3.0泊地
-4.0岸壁	-4.5航路
-3.0岸壁改良	道路
北物揚場改良	用地 ほか

港の概要 (平成16年)		
陸揚量(トン)	属人陸揚量(トン)	陸揚金額(百万円)
1,820	1,799	619
登録漁船数(隻(トン))	利用漁船数(隻(トン))	
111(496)	109(488)	
主な漁業種別	主な陸揚げ漁種	
船曳網、小型底曳網、刺し網、かご、延縄	イカナゴ、ホッキガイ、サケ、タコ、カレイ	

施設概要(m) (平成16年度末)		
外かく施設	防波堤	1,849.9
	護岸	1,029.5
	防砂堤等	566.5
計		3,445.9
けい留施設	岸壁	731.1
	船揚場	85.1
	物揚場	528.3
計		1,344.5

つるしはま
第2種 釣師浜漁港



所在地：相馬郡新地町
指 定：昭和28年5月28日



釣師浜漁港は県の最北部に位置し、二級河川濁川河口部に整備された漁港です。当初は第1種漁港でしたが、漁船数、漁獲量の増大に伴い、昭和63年に第2種漁港に格上げされました。主に船びき網による漁業が盛んであり、イカナゴの水揚げが多い漁港です。

～ 概要 ～

港 の 概 要 (平成16年)		
陸揚量(トン)	属人陸揚量(トン)	陸揚金額(百万円)
2,003	1,929	413
登録漁船数(隻(トン))	利用漁船数(隻(トン))	
62(297)	92(433)	
主な漁業種別		主な陸揚げ漁種
船曳網、刺し網、かご		イカナゴ、カレイ、ツブタコ

施設概要(m) (平成16年度末)		
外かく 施設	防波堤	4,082.6
	護 岸	2,814.1
	防砂堤等	195.8
	計	7,092.5
けい留 施設	岸 壁	270.2
	船揚場	50.0
	物揚場	308.3
	計	628.5

つるしま
釣師浜漁港海岸



らちはま
埴浜地区海岸

砂浜の侵食が著しく、高波浪時における越波等により支障を来しているため、海岸保全施設整備事業により、沖側に人工リーフ等の整備を実施しています。

漁港海岸保全施設整備事業（侵食）	
総事業費	1,851 百万円
実施予定年度	H12～H21
主な工種	
人工リーフ	300m
堤防改良	600m
緩傾斜護岸	430m

やちごや
谷地小屋地区海岸

海岸保全施設整備事業により、沖側に離岸堤の整備が図られ、砂浜が安定しました。夏場は海水浴場として賑わい、地元住民の憩いの場となっています。



第2種 まのがわ 真野川漁港



所在地：南相馬市

指 定：昭和28年5月28日



真野川漁港は真野川の旧河口部に位置し、現河口部を利用して外海と連絡します。当初は第1種漁港でしたが、漁船数、漁獲量の増大に伴い、昭和63年に第2種漁港に格上げされました。主に船びき網による漁業が盛んであり、イカナゴの水揚げが多い漁港です。現在は地域水産物供給基盤整備事業にて沖防波堤及び物揚場等の整備を行っております。また、南相馬市にて漁業集落環境整備事業として緑地広場等を中心とした施設整備を実施しております。主に船びき網による漁業が盛んであり、イカナゴの水揚げが多い漁港です。

～概要～

地域水産物供給基盤整備事業	
総事業費	1,700 百万円
実施予定年度	H14～H20
主な工種	
沖防波堤	-2.5物揚場補修
南防波堤改良	-2.5物揚場
護岸	道路
-3.0航路	用地
-2.5泊地	

港 の 概 要 (平成16年)		
陸揚量(トン)	属人陸揚量(トン)	陸揚金額(百万円)
1,344	1,344	330
登録漁船数(隻(トン))	利用漁船数(隻(トン))	
56(242)	63(268)	
主な漁業種別	主な陸揚げ漁種	
船曳網、刺網、かご、定置網	イカナゴ、カレイ、サケ ホッキガイ、タコ、ツブ	

施設概要(m) (平成16年度末)		
外かく 施設	防波堤	1,790.5
	護岸	533.1
	防砂堤等	3,478.4
	計	5,802.0
けい留 施設	岸壁	0.0
	船揚場	48.0
	物揚場	372.1
	計	420.1

まのがわ
真野川漁港海岸



からすざき
烏崎地区海岸

海岸環境整備事業により、沖側に人工リーフの整備が図られ、砂浜及び波が安定したことから、海水浴場として利用する計画であり、併せて階段護岸、トイレ、駐車場等の整備を図り、海浜公園として憩いの場の整備を図っています。また、人工リーフと導流堤の間ではサーフィンが盛んに行われています。

漁港海岸環境整備事業	
総事業費	1,434 百万円
実施予定年度	H4～H18
主な工種	
人工リーフ	350m 園路 1式
階段護岸	420m
駐車場	1式
トイレ	1式



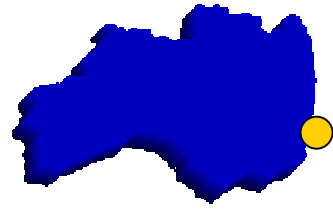
海水浴の利用状況



サーフィンの利用状況

第2種 ひさのはま 久之浜漁港

所在地：いわき市久之浜町
指 定：昭和26年7月20日



久之浜漁港は大正2年より漁港整備が行われてきましたが、漁船の大型化、漁獲量の増加等から昭和26年より管理者を県に変更し、漁港長期整備計画に基づいて整備されてきました。その後、昭和32年に漁港区域を縮小し、旧運輸省所管の避難港の指定を受けました。主に底びき網、船びき網による漁業が盛んであり、タコの水揚げが多い漁港です。

～概要～

港の概要 (平成16年)		
陸揚量(トン)	属人陸揚量(トン)	陸揚金額(百万円)
2,128	2,061	692
登録漁船数(隻(トン))	利用漁船数(隻(トン))	
92(496)	92(496)	
主な漁業種別	主な陸揚げ漁種	
かご、船曳網、刺し網、小型底曳網、貝桁	タコ、オキアミ、イカナゴ、カレイ、イカ、タラ	

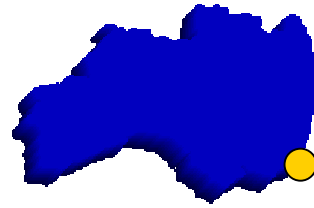
施設概要(m) (平成16年度末)		
外かく施設	防波堤	566.6
	護岸	199.6
	防砂堤等	0
	計	766.2
けい留施設	岸壁	554.3
	船揚場	89.5
	物揚場	0
	計	643.8



水揚げ状況

第2種 よつくら 四倉漁港

所在地：いわき市四倉町
指 定：昭和26年7月10日



四倉漁港は古くから漁業が行われ、大正5年より県の補助を受けて漁港整備が始まり、昭和5年に県管理に移管後、北洋サケ・マス漁業の基地として発展してきましたが、遠洋漁業の国際規制に伴い減船を余儀なくされ、港勢も減少したことから、平成14年には第3種から第2種に変更となりました。主に底びき網、船びき網の漁業が盛んであり、貝類の水揚げが多い漁港です。

～ 概要 ～

港 の 概 要 (平成16年)		
陸揚量(トン)	属人陸揚量(トン)	陸揚金額(百万円)
622	2,853	155
登録漁船数(隻(トン))	利用漁船数(隻(トン))	
37(780)	36(221)	
主な漁業種別	主な陸揚げ漁種	
船曳網、小型底曳網、貝桁	ホッキガイ、タコ、カレイ	

施設概要(m) (平成16年度末)		
外かく 施設	防波堤	3,094.5
	護 岸	1,716.2
	防砂堤等	2,480.5
	計	7,291.2
けい留 施設	岸 壁	800.0
	船揚場	46.5
	物揚場	0.0
	計	846.5

- 漁港環境整備統合事業(H17完) -



本箇所は、海水浴場としての利用者が多く、お祭りやビーチバレー大会等が行われおり、海岸の利用が盛んなところです。このため、海岸と漁港の利便性の向上を図るため、漁港環境整備事業により、トイレ、遊歩道、駐車場、多目的広場等の整備を図りながら、旧漁具倉庫を活用した地元物産館を開館させるなど、地域と協働した環境整備を行いました。



四倉ふれあい物産館



お祭り



ビーチバレー大会



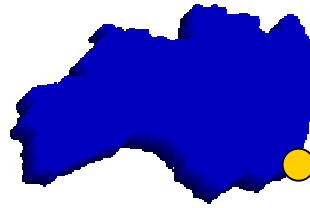
野外音楽会



ビーチサッカー大会

第2種 とよま 豊間漁港

所在地：いわき市豊間町
指 定：昭和26年7月10日



豊間漁港は、北側から沼之内地区、薄磯地区及び豊間地区の3地区に分かれており、薄磯地区と豊間地区の間には名勝地として知られる塩屋崎灯台があります。主に船びき網が盛んで、水揚げはオキアミ・イカナゴが多い漁港です。

～概要～

港の概要 (平成16年)		
陸揚量(トン)	属人陸揚量(トン)	陸揚金額(百万円)
649	954	301
登録漁船数(隻(トン))	利用漁船数(隻(トン))	
112(191)	147(340)	
主な漁業種別	主な陸揚げ漁種	
船曳網、小型底曳網、刺し網、採貝、かこ	オキアミ、イカナゴ、ホッキガイ、タコ、カレイ	

施設概要(m) (平成16年度末)		
外かく施設	防波堤	1,273.4
	護岸	4,316.0
	防砂堤等	408.0
	計	5,997.4
けい留施設	岸壁	60.0
	船揚場	94.5
	物揚場	452.6
	計	607.1



塩屋崎灯台

ぬまのうち とよま うすいそ
沼之内・豊間・薄磯地区



沼之内地区

沼之内地区は昭和30年に旧港部の整備が完成しましたが、漁船、漁獲量の増加に伴い、新港部の整備を行い、平成13年度に完了しました。



豊間地区

豊間地区は明治時代より磯漁業が営まれていましたが、昭和26年に県に管理が移管され、漁港施設の整備が進捗し、平成13年に概成しました。



薄磯地区

薄磯地区は以前より天然地形を利用した漁港でしたが、昭和52年に防波堤、船揚場等の施設整備が行われました。当地区は、主に採貝藻業が盛んで、水揚げはウニ・アワビが多い漁港です。

とよま
豊間漁港海岸



うすいそ
薄磯地区海岸

県内で最多の海水浴入込客数を誇る海岸であり、南側に景勝地である塩屋崎灯台もあることから、いわき市有数の観光地となっています。日本の渚・百選に認定されています。

とよま
豊間地区海岸

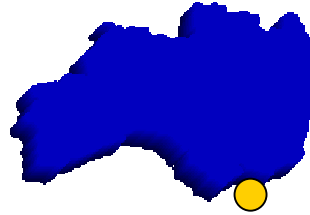


海岸南側において砂浜の侵食が著しく、高波浪時における越波等により背後集落の生活に支障を来していることから、環境に配慮した人工リーフの整備を行っております。

漁港海岸保全施設整備事業（侵食）	
総事業費	600 百万円
実施予定年度	H16～H20
主な工種	
人工リーフ	200m

第2種 なごそ 勿来漁港

所在地：いわき市勿来町
指 定：昭和26年7月10日



勿来漁港は、天然の入江を利用して漁業活動が行われていましたが、昭和13年から漁港施設の整備が始まりました。漁船、漁獲量の増加等に伴い、昭和22年に管理を県に移管し、漁港整備計画に基づき、現在の形に施設整備が図られました。主に船びき網による漁業が盛んであり、オキアミ類の水揚げが多い漁港です。



勿来漁港海岸

～概要～

港の概要 (平成16年)		
陸揚量(トン)	属人陸揚量(トン)	陸揚金額(百万円)
1,460	1,602	188
登録漁船数(隻(トン))	利用漁船数(隻(トン))	
61(180)	57(228)	
主な漁業種別	主な陸揚げ漁種	
船曳網、小型底曳網 沿岸延縄	オキアミ、イワシ、タラ カレイ	

施設概要(m) (平成16年度末)		
外かく 施設	防波堤	677.7
	護岸	1,226.3
	防砂堤等	0.0
	計	1,904.0
けい留 施設	岸壁	0.0
	船揚場	101.0
	物揚場	460.6
	計	561.6

第1種 とみおか 富岡漁港



所在地：双葉郡富岡町
 指 定：昭和26年11月14日



富岡漁港は、県のほぼ中央部に位置し、砂浜を利用した漁業が営まれてきましたが、砂浜の減少や高波浪等により漁業活動に支障を来たしたため、近隣の天然入り江を用いた小良ヶ浜漁港（現在は廃止）を利用して漁業活動が行われておりました。その後、昭和26年に漁港指定を受け、漁港施設の整備が進み、平成6年に県に移管されました。

～ 概要 ～

地域水産物供給基盤整備事業	
総事業費	1,210 百万円
実施予定年度	H13～H18
主な工種	
東防波堤	道路
-2.5物揚場	用地造成
-2.5泊地	波除堤
-3.0航路	

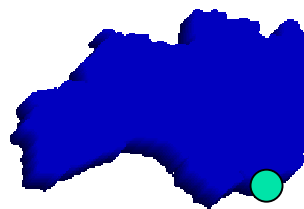
漁港環境整備統合事業	
総事業費	484 百万円
実施予定年度	H18～H22
主な工種	
突堤	海浜
緑地公園	階段

港 の 概 要 (平成16年)		
陸揚量(トン)	属人陸揚量(トン)	陸揚金額(百万円)
37	79	33
登録漁船数(隻(トン))		利用漁船数(隻(トン))
23(127)		18(85)
主な漁業種別		主な陸揚げ漁種
固定式刺し網、船曳網		タコ、シラウオ、サケ、スズキ、ヒラメ、カレイ

施設概要(m) (平成16年度末)		
外かく施設	防波堤	1,145.4
	護岸	297.0
	防砂堤等	746.8
	計	2,189.2
けい留施設	岸壁	0.0
	船揚場	26.2
	物揚場	152.1
	計	178.3

第1種 おばま 小浜漁港

所在地：いわき市小浜町
 指 定：昭和26年11月14日



小浜漁港は滑川及び馬坂川の河口部の天然漁港として昔から利用され、昭和8年の泊地整備以降、漁港施設の整備が行われてきました。その後、昭和36年に県に移管され、漁港施設及び環境整備等が実施されました。主に採貝藻業が盛んであり、アワビ、ウニ類の水揚げが多い漁港です。

～ 概要 ～

港 の 概 要 (平成16年)		
陸揚量(トン)	属人陸揚量(トン)	陸揚金額(百万円)
18	449	59
登録漁船数(隻(トン))	利用漁船数(隻(トン))	
36(46)	36(46)	
主な漁業種別	主な陸揚げ漁種	
採貝、採藻	アワビ、ウニ、ワカメ	

施設概要(m)(平成16年度末)		
外かく 施設	防波堤	420.0
	護 岸	649.5
	防砂堤等	118.8
	計	1,188.3
けい留 施設	岸 壁	0.0
	船揚場	80.0
	物揚場	158.2
	計	238.2

～ふくしまの海の幸～

春 spring



あさり

春になると、松川浦で潮干狩りが始まるとともに、出荷も本格化します。



▲あさりのバターいため

●バターいためでの作り方

厚鍋にバター・サラダオイルを熱し、にんにく・玉ねぎを薄茶色になるまでいため。あさりと、白ぶどう酒・塩・こしょうを加え蓋をし、蒸し煮する。



こうなご

3月を迎えると、コウナゴ漁が開始されます。船びき網で大量に漁獲されますが、鮮度が落ちやすいので、シラス干しとしての利用がほとんどです。

新鮮なものは生でももちろん、地元加工した浜のコウナゴは大変美味しいです。かき揚げ、佃煮、煮物などにしても美味しいです。



めひかり

深海性で目が大きく、眼球が青く光って見えるため、俗称としてメヒカリと呼ばれています。

見てくれは、多少悪いですが、味は最高。

刺身、唐揚げ、天ぷら、素焼き等いずれもグー。

夏 summer



ほっきがい

福島県では、6月から翌年1月までが漁期で、夏に美味。生産量は全国でもトップクラス。

●ホッキ貝のむき方



※殻口（砂が吐き出すところ）からナイフ（洋食用）をえぐれ、下に向け両方の貝柱を切る。

- ①調理直前に殻から出します。早めに出すときは塩水でさっと洗い、冷蔵庫で保存します。
- ②下ごしらえ：汐かき（黒い部分）をさりととり、内臓を取り出して、塩水で洗って水気をきります。

●ホッキ貝の調理方



ほっき貝は、生のものを半分にさき、熱湯をくぐらせます。ひもも、さっと熱湯を通して一緒に、わさび又はしょうが醤油で食べます。（ひもは、お吸物、かき揚げに入れても美味しいです。）



かつお

5月になると、本県にも水揚げされだし、浜は活気づき、夏季に水揚げの盛期を迎えます。



うに

福島県では、5月から8月上旬までが漁期で、夏に盛期を迎えます。本県では、ほっきがいの殻にうにをのせ、蒸し焼きにした「貝焼き」が特産品となっています。



▲貝焼き

～福島県 農林水産部 生産流通領域 水産グループからの資料提供～

～ふくしまの海の幸～

秋

autumn



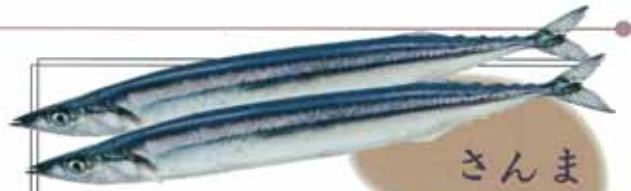
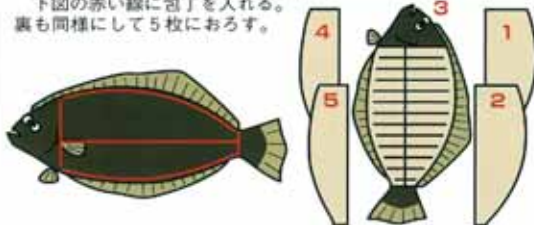
ひらめ

福島県での「資源管理型漁業」「つくり育てる漁業」の代表選手で、年間100万尾の稚魚を放流するとともに、漁業者自らの取組により、全長30cm未満の漁獲を禁止しています。

秋から冬にかけて、「寒ひらめ」として美味。

●ひらめの5枚おろし

下図の赤い線に包丁を入れる。裏も同様にして5枚におろす。



さんま

秋の味覚の王様。福島県の生産量、生産額は、常に全国の上位にあり、本県水産業の顔のひとつ。

●さんまの焼き方

焼く直前に塩をふって強火の遠火で手早く焼き、焼きたての熱いところをたっぶりの大根おろし、ゆずやすだちの搾り汁で食べる。簡単には、油を塗ったアルミ箔に包んで焼いてもよい。脂ののったものはかば焼きにしてもおいしい。



さけ

シロザケ、アキサケとも呼ばれ、9～12月に生まれた川に帰ってきます。

鍋、バター焼き等で、美味。イクラも手作りでどうぞ。

●石狩鍋の作り方

ぬれぶきんでふいた昆布を鍋に入れダシをとり、火の通りにくい物から煮ます。みそを煮汁で溶かしながら入れます。さけやほかの魚介類を鍋に入れ、仕上げに牛乳を入れて煮立てます。ほたてや春菊などは後から入れましょう。

冬

winter



あんこう

冬の旬の味覚として、珍重されています。福島県での生産量は全国でも有数であり、より一層の消費拡大が期待されています。

アンコウ鍋、ともあえ、唐揚げで美味。体も暖まります。

●調理のワンポイント

なべ物にするのが一般的。皮や内臓類も食べられるので、さっと湯通しして使う。

なべ物のほか、みそ仕立ての汁物もよい。このとき、酒かすを少量加えると風味がよい。

肝は身よりもおいしいといわれるほど。ゆでて酢みそとすり混ぜ、ゆでた身や皮をあえる。



ずわいがに

本県にズワイガニが水揚げされていることはあまり知られていませんが、太平洋側では一大産地となっています。現在は、日本海へ陸送されていますが、地元での消費拡大を図っています。

ゆでたてのものを、熱いうちにどうぞ。



かれい

マコガレイ、マガレイ、イシガレイ等たくさんの種類のかれいが水揚げされます。

特に12～1月には、マコガレイ、イシガレイが大量に水揚げされます。

●カレイの煮付けの作り方

①カレイ小4匹はうろこをこそげ落とし、裏側の腹に小さな切り目を入れてわたを出し、塩水で充分に洗う。水けをよくふいて表側に大きく×印の切り目を入れる。

②なべに水、酒各4分の1カップ、砂糖大さじ3、みりん、しょうゆ各大さじ4を入れて強火で煮立て、カレイを並べて薄切りしょうがと焼きねぎを散らす。煮立ったら中火にして落としふたをし、さらになべぶたもして10分煮る。最後にしょうゆ、みりん各大さじ2分の1をふって火を止める。

福島県 農林水産部 生産流通領域 水産グループからの資料提供

福島県の水産業

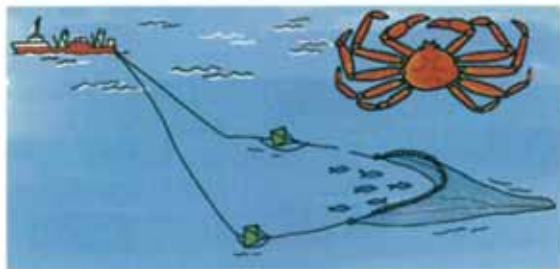
主な漁業の種類

サンマ棒受け網



夜に光でサンマの群を集めて、大きな網ですくいあげます。北海道から千葉県沖が主な漁場です。福島県では、いわき市の港で水揚げされます。

底びき網



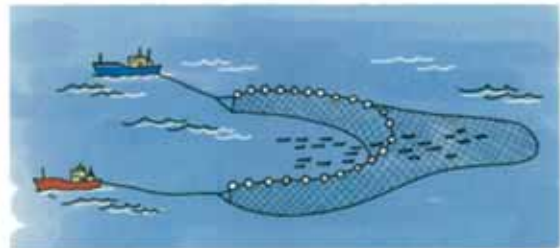
大きな網で海底をひきずり、カレイやヒラメ等海底近くにいる魚などをとります。水深100mから400mの海底が主な漁場です。松川浦漁港は、全国有数の底びき網漁船の基地です。

まき網



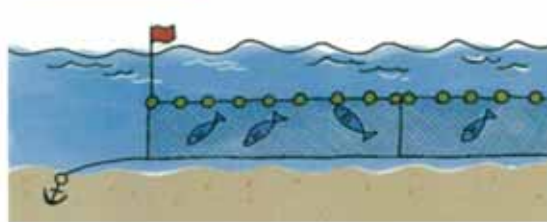
大きな網で、イワシやアジ、サバの群を囲んでとります。北海道から千葉県沖が主な漁場です。福島県では、小名浜港に多く水揚げされています。

船びき網



袋状の網で海の表層から中層を引っぱり、イワシのこどもや、コウナゴをとります。水深20mほどの海が主な漁場です。相馬は全国でも有数のコウナゴの産地です。

さし網



海中にたてに網をはり、カレイやヒラメ、メバル等の移動する魚をとります。水深10～30mほどの砂地や磯の海が漁場です。県内では相馬・双葉地区でさかんに行われています。

貝桁網



マンガと呼ばれる熊手のような漁具をひきずり、砂の中にあるホッキガイをとります。水深10m前後の砂地の海が主な漁場です。福島県の平成16年のホッキガイの水揚量は1,001トンで全国第2位です。

漁港関係用語説明

- 緩傾斜護岸^{かんけいしやごがん} 護岸・堤防の勾配を緩やかにすることにより、砂浜・水際へのアクセス性を向上させることで、人が散策したり水辺親しめるように配慮された護岸。
- 岸壁・物揚場^{がんべき ものあげば} 船を接岸して、漁獲物の陸揚げや漁船員の乗降等を行なうために、水際に築造する施設。干潮時において前面に 3.0m 以上の水深を有するものを岸壁といい、3.0m 未満のものを物揚場とよんでいる。
- 漁港 天然または人工の漁業基地となる水域及び陸域並びに施設の総合体であって、農林水産大臣から指定されたものをいう。
- 漁港区域 漁港の整備または管理をするために必要な水域及び陸域。
- 係船浮標^{けいせんひょう} 港内に船をつなぎ泊めるもので、海底とチェーンなどによって繋がれ海上に浮かんでいる施設。
- 航路^{こうろ} 漁船が安全に入出港、あるいは港内から他の地区へ移動するために、十分な幅員及び深さをもった港内及び港外の水域。
- 人工リーフ 自然の珊瑚礁（リーフ）が波を消す機能をまねて、浅海域に人工的に造成する幅の広い消波構造物である。この人工リーフは、海岸の浸食を防ぎ、漂砂を堆積させることで砂浜を安定させることを目的としている。また、最近では海岸保全という本来の目的にくわえて、海藻による水質の浄化機能やウニ・アワビなどの水産動物の増殖機能、魚が集まる魚礁機能などを有していることから、水産業への積極的な利用が期待されている。
- 静穏度 港内水面の静穏さを表す指標（港口から港内に入ってくる波高と港内の波高との比）
- 属人陸揚量^{ぞくじんりくあげりょう} 当該漁港地区内に居住する漁業者の 1 年間の総陸揚(漁獲)量。
- 第 1 種漁港 その利用範囲が地元の漁業を主とするもの。
- 第 2 種漁港 その利用範囲が第 1 種漁港より広く第 3 種漁港に属しないもの。
- 第 3 種漁港 その利用範囲が全国的なもの。
- 導流堤^{どうりゅうてい} 河口などにおいて、流れの方向、土砂の堆積、河口閉塞などを改善するために設置される堤防。
- 泊地^{はくち} 船が安全に停泊及び操船するための水域。
- 波除堤^{はじよてい} 港内において波の力を弱める小形の防波堤。
- 船揚場^{ふねあげば} 漁船を陸上に揚げて保管する、または修理点検などを行なうための施設。
- 防災拠点港^{ぼうさいきょてんこう} 地震災害時に海上からの物資受入の拠点となる港。福島県地域防災計画において、漁港では請戸漁港、港湾では相馬港及び小名浜港が指定されている。
- 防波堤^{ぼうはてい} 外海からの波浪を防いで、港内の静穏度を保つための堤防。
- 養浜^{ようひん} 人工的に砂などを供給し、海浜の安定化を図ること。



福島県土木部河川港湾領域
港湾漁港グループ
〒960-8670 福島市杉妻町2-16
TEL : 024-521-7499
FAX : 024-521-7953
MAIL : kouwagyokou@pref.fukushima.jp

【平成18年6月作成】